

Ⅰ 実施期日・会場・意見交換テーマ・参加人数

実施日時	会場	意見交換テーマ	参加人数	
			出席議員数	参加者数
令和5年11月19日(日) 午後1時40分～2時40分	議会第1委員会室	『人口減少について』 『少子高齢化について』	6人	17人
	議会第2委員会室	『教育環境の充実について』 『ごみ置き場の管理について』	7人	9人
	議会第3委員会室	『子育て環境について』 『各種検診について』	7人	13人
	議会第4委員会室	『ALPS処理水について』 『雨水対策について』	6人	6人
	4か所		26人	45人

2 主な提言・要望等

会場	意見交換テーマ	Q：提案、要望、質疑 A：議会報告会での回答
議会 第1委員会室	人口減少について	Q：震災時、空き地を探していた人たちがいた。 その時に、規制を緩めて、空き地を有効活用し、移住定住対策が必要だったと思う。 A：農業委員会の制度上、建築規制制限がある場所があり、建築出来かねる状況であった。 小規模開発とした動きはあった。 土地が出来るのを待てず、他地域へ移住した方々もいた。
		Q：若い人たちの働き先（給与の良い会社）の企業誘致が必要だと思う。 A：雄勝地区に水産企業誘致の施策を進めている。 人口減少の進みを少しでも軽減できるよう委員会としても施策を進めていくようにしたいと思っている。 震災により被害を受けた津波浸水地域の一部において工場等を新增設する企業に対する補助を行う 「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」を活用し、渡波地区にある会社が工業港側に 工場を新設し、50人～100人程度の雇用を見込んで 皆様からの情報もいただきたい。 石巻市の平均年収は約290万円で、仙台市の平均年収は約350万円となっていて、60万円ほどの 差があり、仙台に若い人たちが流れてしまう。その差を埋める取組みをしていきたい。
		Q：移住した方々への、支援策はあるか。 A：石巻市で新築もしくは、購入に対して、石巻市定住促進住宅取得等補助金があり、 取得の場合は、最大150万円 改修の場合は、最大50万円 を補助する制度である。
		Q：結婚しても、子どもを預ける施設へ対する施策が必要では。 A：今は、待機児童がいない状況ではある。 男女出会いの場を創出する「縁結び事業」を行なっている自治体がある。 第二の親的存在のボランティアサポーターで取組み、成果もあげている。 本市も取組みを見習う必要があると思う。 お子さんが病気になったときに預けられる病院がない。 保育所への預ける時間延長の取組みも必要と思う。
		Q：議員さんへのお願いとして、石巻のここが素晴らしいということを知恵を絞って、他地域から訪れて くれることを考えて見つけてほしい。それがあること、若い世代も定住してくれると思う。 A：子供達（18歳以下）の医療費無償化を行なっている。 知恵を絞って、若い世代が住みやすい環境を整えていきたいと思う。

会場	意見交換テーマ	Q： 提案、要望、質疑 A： 議会報告会での回答
議会 第1委員会室	少子高齢化について (高齢者)	Q： 乗合バスが隅々まで走らない。自宅から停留所まで歩いていけない人が多く、停留所まで行けない。 議員は、キメ細かい現状を把握して対応し、幸せに暮らせるようにしてもらいたい。
		A： 隅々の自宅まで対応を行うことは、財政負担が大きいため、手始めに桃生・河南地区では進んでいる。 担当課が研究をしている最中である。 財政事情が厳しいが、少しずつ詰める頑張りをしていく。
		Q： 原子力災害時における避難計画について市ではどう考えているか バス待機場所まで、高齢者はたどり着けない。
		A： 宮城県では、アプリを導入し携帯電話に自分の位置情報を発信するシステムがある。 避難訓練に多くの人に参加していただき、積み重ねていくことが大事だと思う。 地域コミュニティ向上により、自助・共助が必要である。
		Q： 高齢者は、アプリを使用できない、目が見えない、耳が聞こえない、防災無線が聞こえない。 A： 地域コミュニケーションによる互いの声かけが必要である。
議会 第2委員会室	教育環境の充実 について	Q： 避難道路、女川～稲井地区への開通はいつぐらいからなのか。避難道路を渋滞の緩和につなげるようにすべきでは。
		A： 国の施策であり、設計は終わっていると聞いている。 ひとつひとつ積み重ねて、対策につとめていきたい。
議会 第2委員会室	教育環境の充実 について	Q： 中高一貫校の設置について 少子化もあり、小中学校再編計画があるが、魅力的な特色のある学校が無い。中高一貫校についても設置検討、もしくは県への設置要望を行ってほしい。
		A： 桃生町では令和9年に桃生中の脇に新たに学校を建てて、小中一貫校にしていく見込みもある。 学校統合が進んだ事例では、当該校のPTAから早期統合の要望があって進んだ事例が多く、学区再編を進めるには地域等からの理解が重要である。 全県学区になったうえ、少子化が進み、高校は150-170人が石巻圏域外へ進学していると聞く。一方、高校の種類が多くあることは多様な選択肢を確保する観点からも逆に魅力的であり、進学を目指す子供たちも仙台に通えるということはメリットであると考えます。

会場	意見交換テーマ	Q：提案、要望、質疑 A：議会報告会での回答
議会 第2委員会室	教育環境の充実 について	Q：学校教員の繁忙度について 学校の先生の残業が多いと聞くと、それほどまでに多いのか。また、充足率は満足しているのか。 A：授業の他に部活の顧問など、業務が多く、仕事を家に持ち帰る教員も多いと聞いており、石巻市では部活の外部委託などで先生の負担を減らそうという取り組みも進んでいる。 今年度から市内の小中学校では16時30分以降は留守番電話に繋げるように変更し、教員負担軽減を図って効果を上げているという声もあるが、保護者にとっては利便性が下がったという声もあり、今後の状況を注視していく必要がある。教員の欠員については、年度途中の補充などができず、他の教員たちでカバーしている学校は市内でも複数存在している。
	ごみ置き場の管理 について	Q：ゴミ置き場の管理は町内会で管理するものなのか、市で管理するものなのか教えてほしい。 A：廃棄法において、市はゴミの運搬処分、土地・建物所有者は分別に従い、運搬処分を行うと定められており、町内会で管理していただくことが基本。 ただし、適切な管理に向けての相談などは気軽に担当部署へ連絡してほしい。
		Q：ゴミ置き場に布団などルール外の廃棄物が投棄されて困っている。こちらで処分できない場合は市でやってもらえんとしても、ルール外の廃棄物でも持って行ってもらえんと思われて繰り返される事例もある。アパートの居住者や外国籍の方がそういった処分をすることが多く、外国の方が転入されてくる際に、市から周知・働きかけをしてほしい。 A：桃生地区では収集日に違う種類のゴミを出せないようにゴミ集積場に鍵をかけているような工夫をしている事例があり、別の地区ではルール違反者向けの注意を行うような事例もある。
		Q：飲食店からのゴミについて 町内会員の人数に見合った大きさの集積場を設置しているが、町内会に入っていない飲食店のゴミで満杯になる場合や収集日を守らない場合がある。産業廃棄物として事業者での完結処理を指導すべきなのか、町内会に入って町内会費を納めるよう対応すべきなのかどうか教えてほしい。 A：一般住宅と混在している場所は見分けが難しく、事業系一般廃棄物と従業員のゴミも見分けがつかない状況を察する。個別に事業者と回収運搬契約を締結している店舗もあるが、連休時には回収ができないといった課題は残る。 飲食店からのゴミの扱いに対する石巻市の取扱について後日改めて確認し、回答することとする。また、飲食店街に対して注意喚起の文書配布をするといった試みもあるが、町内会費とゴミ集積場は別物であり、会費を払わなければゴミ出しを拒める類ではないことをご理解いただきたい。

会場	意見交換テーマ	Q： 提案、要望、質疑 A： 議会報告会での回答
議会 第3委員会室	子育て環境について	Q： 保健福祉委員会の中で現状の子育て、子育て世代への認識はどのようになっているのか。 A： 少子化と向き合い、そして生まれてくる子どもやその世帯をどう支えていけるかが大卒の課題だと取り組んでいる。 また、核家族化が進んだ今の時代では家庭だけでなく、地域や家庭を取り巻く環境全体で子育てが必要だと考えており、石巻市のサービスとしては産後ケアや当事者交流の機会の創出等サービスは充実してると感じるが、それらを市民にしっかりと伝え、繋げていくことは一つの具体的な課題だと考えている。
		Q： 保健福祉委員会の中で現状の子育て、子育て世代への認識はどのようになっているのか。 A： 少子化と向き合い、そして生まれてくる子どもやその世帯をどう支えていけるかが大卒の課題だと取り組んでいる。 また、核家族化が進んだ今の時代では家庭だけでなく、地域や家庭を取り巻く環境全体で子育てが必要だと考えており、石巻市のサービスとしては産後ケアや当事者交流の機会の創出等サービスは充実してると感じるが、それらを市民にしっかりと伝え、繋げていくことは一つの具体的な課題だと考えている。
	その他 (医療)	Q： 石巻市には泌尿器科が一か所しかない。 それによる混雑や、休日時が不安である。石巻市立病院での診療体制も検討してもらえないか。 A： 泌尿器科の先生も高齢になってきているため市立病院でも検討していく必要性を感じている。
		Q： 評判の良い先生や機能を増やす等、市として市立病院に力を入れてほしい。 A： 地方の大きな課題として医師の確保の難しさがある。 自治体が奪い合いをしている現状のなか、石巻市が常勤医を20名確保している点やインターン生を確保しようと取り組んでいる点は評価している。 一方で、泌尿器科の話題のように市民ひとり一人のニーズに合わせて診療科目を増やしていくこと、また市立病院は石巻医療圏域でも重要な拠点であるため医療局構想を含めしっかりと検討していく必要がある。
	その他 (心のケア)	Q： 復興住宅における独居高齢者をはじめ心のサポートが必要な人たちはまだまだ居ると感じる。 そのような方たちへの今後の支援について伺う。 A： ハード面での復興事業は終わったが、心のケアはこれからも必要だと市長も強く言っている。 私たちも独居高齢者や社会から疎外された方の心配をしており、現在は地域で活動してくれている民生委員や支援者等と市福祉部、社会福祉協議会をはじめ福祉団体が連携してそのような方のケアに取り組んでいる。今後は市の施策や支えあいセンター等がより機能的に連動していくことが必要。
		Q： 民生委員といっても心のケアに関わることは非常に大変である。 それら地域の活動者が日常的に集い情報交換や悩みの相談をできるような場が必要ではないか。 A： 民生委員の苦労や報酬の少なさ、欠員の多さに関しては危惧している。市に伝えていく。

会場	意見交換テーマ	Q： 提案、要望、質疑 A： 議会報告会での回答
議会 第3委員会室	その他 (高齢化)	Q： 補聴器助成（障害認定の有無に関わらない）を石巻市でも検討してもらえないか。 A： 先日同僚議員の一般質問により議会でも話されましたが、その中では補聴器購入の助成は全国一律の公的補助として制度化されるべきという認識で、市として国へ要望していくという内容でしたが、この補聴器助成、いわゆる聴覚保障は高齢化社会の中で、高齢になっても健康で生きがいをもって暮らしてもらうために重要だと考えるため市に提言していきたい。
議会 第4委員会室	A L P S 処理水 について	Q： 石巻市として処理水の対応は。 A： 市としては検体検査を毎年行い、安全性の確保に努めている。 石巻の魚介類の安全性を宣伝するための食事会などを行っている。
		Q： ホタテの販売について A： 中国への販売から、他の国への販売も視野に入れて考えていく。
		Q： アルプス処理水の石巻市で独自の対策はあるのか。 A： 対応については国への要望を行っているが、石巻市単独としての対応は、今はないが、石巻市に東京電力の対応窓口を予約制で設置するなど対応していただいている。 処理水は30年ほどかけて放出する関係で、市単独だけでは解決できない。 長期的な視点で国への交渉や要望で対応していく。市としては検体検査に予算を設けて行い、魚介類の安全性の確保に努めている。
	雨水対策について	Q： トリチウムについて不安を抱いている人も多いがどのように説明を行っていくのか。 A： トリチウムについては、わかりやすい説明を行い、安全性の確保や安全性のPRに努めていく。
		Q： 蛇田地区のポンプ場が少ないのではないか。 A： 蛇田地区は、ポンプ場が数は少ないように思えるが、調整池や、地下の排水設備も整備しておりますので少ないわけではない。 しかし、容量以上の大雨の時は、一時的に溢れるが、ポンプ場が稼働することにより、これまでよりも早く雨水が処理できる。
		Q： 前谷地の江合川の龍口神社周辺が毎年水が上がっている。 A： 主体は河川の管理は国交省の管理となるが、不安であれば市から国交省へ依頼をする。現場を確認して対応する。

会場	意見交換テーマ	Q：提案、要望、質疑 A：議会報告会での回答
議会 第4委員会室	雨水対策について	Q：雨水・ポンプ場の全体の計画（将来計画）はどのくらいで完成するのか。 A：あくまでも計画であり、明確な日付までは未定である。 計画書の赤丸は、継続工事中の場所である。
	その他	Q：健康づくりパークについて（渡波地区）いつ頃完成予定か。 A：工事完成は、今年度中を目標に進めている。
		Q：渡波クリニック跡地の利用について。 A：渡波地区の医療機関の誘致の行動は行っているが、医療機関の設置についてはハードルが高い。